



宮司プレス 第百六十三号

彦島八幡宮 宮司 ニューズ

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和二年十二月三十一日

◇宮司の柴田です。 いよいよ、暮れ果てて参りました。

コロナウイルス感染症の蔓延(まんえん)による、移動や集会の自由が奪われ、新しい生活様式を余儀(よぎ)なくされた、令和二年も終わりを告げようとしています。

私事で大変恐縮ですが、明年、数えの六十歳を迎えます。 俄かには、信じてたく、私は、平気で、実年齢に零点七(れいてんなな)を掛けておりました、気持ちだけは四十二歳のつもりであります。

神社神道は、いつも清々しくいつもも若々しくという、「常若(とこわか)」の思いを大切にしていまいりました。 再来年は、とうとう還暦です。

日常の生活全般は、ウェルエイジング、肯加齢(こうかれい)で、健康に留意をし、無理をしないで怠けず、QOR(クオリティ オブ ライフ)、生活の質の向上をはかりたいと思います。

しかしながら、心掛けや気持ちは、前述(ぜんじゆつ)の「常若の思い」で、アンチエイジング、抗加齢(こうかれい)、四十二歳のつもりで何事にも取り組んで参りたいと思います。

◇今年の宮司プレスの発行は、一月に一回のペースを守る事ができました。

移動や集会が、めつきり減ったコロナ禍、ステイホームが奏功(そうこう)したようです。

しかも、年賀状は、このたび、十年ぶりに、宛名と御芳名、すべて墨書しました。

素晴らしい快筆であります。裏面の文言については、次号で詳しく述べたいと思います。

◇さて、来年の干支(えと)は、辛丑(かのとうし)であります。

辛は、「しん」と読み、刺青(いれずみ)をする把手(とつて)のついた大きな針(はり)が、元々の形です。



したがって、「つらい」と読めるのです。

丑は、「ちゆう」と読みまして、指を力強く曲げている形を表しています。

辛は、また、新しいという意味があります。

動物では、牛が当てられています。

牛は、今では、もっぱら食用として我々の暮らしにかかせません。

手段、あるいは、農耕作業のたすけとなるものでした。

コロナウイルス禍、はたまた、拡大の歯止めのかからない世相、明年、ワクチン接種される運びです。

まさに、新しい展開が期待されるのです。

実は、「ワクチン」は、ラテン語で、雌の牛のことです。

御周知(ごしゆうち)のとおり、天然痘(てんねんとう)の撲滅(ぼくめつ)にも貢献したのも牛です。

その牛にあやかり、一日も早い終息を心から願うものです。

◇さて、来年の干支にまつわる書初めは、「辛紐(こうちゆう)」と認(したた)めます。

私の造語(ぞうご)ですが、「辛」のなかに、「辛」がありますし、「紐」という字にも、「丑」があります。

さらに、「辛」という字の「なべぶた」を大きく下に伸ばして、「一」そして、「二」を加えると、何と、「辛」という字になるではありませんか。

「苦難は幸福の門」であります。しつかり、足を開いて踏んばり、思いっきり、足を一步踏み出す、その道のりが、幸せへと結ばれるように、幸と紐を組み合わせたのです。

神社神道は、「つながりの宗教」です。

大神様の御加護(ごかご)につながり、家族や大切な人々をつながり、癒(いや)され和(なご)みつつ、安らぎながら、幸多かりし日々へとつながる暮らしでありますように、心からお祈り申し上げます。

◇十二月の祭典行事報告(予定も含みます)

▼月次祭 *十二月一日、十五日

※令和二年最後の納の月次祭



- ▼貴布祢神社月次祭 *十二月一日
- ▼早起会参拝 *十二月一日
- ▼海士郷恵美須神社祈漁祭 *十二月三日
- ▼田の首八幡宮注連縄おろし

*十二月六日

▼煤払い *十二月十日



- ▼朝粥会 *十二月二十一日
- ▼正月臨時巫女説明会 *十二月二十七日
- ▼貴布祢神社清掃

*十二月二十七日

▼大祓式、除夜祭 *十二月三十一日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◇山口県神社庁役員会、身分選考委員会

*十二月二日

◇KRY熱血テレビにコロナ感染防止の

広報に出演



◇神社庁教化委員会 *十二月十一日

◇美祢社会復帰促進センター 釈放前指導

*十二月十五日

▼その他

◇西山小学校運営協議会 *十二月九日

◇玄洋中学校運営協議会 *十二月十日

◇人権擁護委員人権相談 *十二月十一日

◇迫町自治会役員会 *十二月二十三日